

令和 3 年 4 月 28 日現在

機関番号：32687

研究種目：若手研究

研究期間：2018～2020

課題番号：18K12201

研究課題名（和文）中近世の駿河における日蓮教団の展開：西山本門寺史料悉皆調査に基づいて

研究課題名（英文）The Development of the Nichiren Sect at Suruga in the Medieval and Modern Period: Based on a Comprehensive Research of the Historical Materials of Nishiyama-Honmonji

研究代表者

本間 俊文（HOMMA, Shumbun）

立正大学・仏教学部・専任講師

研究者番号：30779690

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,400,000円

研究成果の概要（和文）：本研究は、静岡県富士宮市671に所在する西山本門寺所蔵の寺院史料に関する調査研究である。従来、全容が明らかでなかった同寺所蔵の寺院史料を対象とした初の悉皆調査を実施し、計1830点の詳細な記録採取と写真撮影を行って、その史料目録を作成した。また、西山本門寺所蔵の重宝の一つである18世日順『内過去帳』に関して国内学会で口頭発表を行い、その成果を論文にまとめて公表し、これまで多くの課題を残していた西山本門寺史の一端を明らかにした。

研究成果の学術的意義や社会的意義

本研究で史料調査を行った西山本門寺史料計1830点の記録は、同寺内外の動向を明らかにするための直接的な手掛かりとなり、今後の西山本門寺史研究の進展が期待される。また、日順『内過去帳』は、近世初期に成立した数少ない過去帳の一例であり、その内容の分析を通じて史料的意義を明らかにしたことは、日本仏教における過去帳研究の進展につながるものと思われる。これらの研究成果は、西山本門寺史の解明に留まらず、駿河における日本仏教史の展開および周辺領域の研究にも大いに裨益するだろう。

研究成果の概要（英文）：This is a research study on the temple archives of Nishiyama-Honmonji Temple in Fujinomiya City, Shizuoka Prefecture. We conducted the first comprehensive research on the temple archives owned by Nishiyama-Honmonji and collected detailed records and photographs of 1,830 items to create a catalog of the archives. We also conducted an oral presentation at a domestic conference on one of the important treasures in the collection of Nishiyama-Honmonji, the Uchikakocho, written by Nichijun, the 18th chief priest of Nishiyama-Honmonji, and published the results in a paper to clarify a part of the history of Nishiyama-Honmonji, which has so far left many problems remains to be solved.

研究分野：日蓮教団史、日本仏教史

キーワード：西山本門寺 駿河 史料調査 中世 近世

1. 研究開始当初の背景

静岡県は、全国で4番目に日蓮宗寺院・教会・結社が多い都道府県である(340箇寺、平成27年度版『日蓮宗名簿』)。併せて同県には日蓮宗の本山格寺院が全国で最多の12箇寺所在しており、静岡県は日蓮教団が大きく発展した地域の一つと言える。

その静岡県、特に旧駿河国を拠点に教域を展開する日蓮教団の一派が日興門流である。日興門流とは、宗祖日蓮(1222-1282)の直弟子日興(1246-1333)を派祖とする門流のことで、所属する北山本門寺(日蓮宗)・上条大石寺(日蓮正宗)・西山本門寺(単立)・小泉久遠寺(日蓮宗)・下条妙蓮寺(日蓮正宗)の5箇寺は同門流の中核をなす本山格寺院として、特に「富士五山」と総称される。日興門流は、京都を中心に展開した四条門流、千葉を中心に展開した中山門流と並び、日蓮教団史研究が最も進展している門流の一つである。

本研究で取り上げる西山本門寺は富士五山の一つに数えられる古刹で、派祖日興の甥とされる日代(1297-1394)が康永2年(1343)頃に現在の富士宮市西山の地に開創した寺院である。寺伝によれば、第13世日春は戦国大名武田家の出身、第18世日順は原家出身、第20世日円は水戸家出身とされ、また第108代後水尾天皇の息女常子内親王の帰依を受けるなど、西山本門寺は中近世にかけて公家・武家の外護のもとに隆盛を極めたと伝えられる。

その西山本門寺には、国指定重要文化財の『紺紙金字法華経』・日蓮筆『法華証明抄』・常子内親王筆『紙墨法華経』・日興筆『宗祖御遷化記録』の4点をはじめとして、日蓮真蹟遺文や公家・武家文書、経典、歴代住持の文書・記録・典籍類、金石文等、多種多様な寺院史料が大量に所蔵されている。これらは、同寺における宗教活動や社会との関係性の足跡を今に伝える貴重な史料群である。西山本門寺史料は、所蔵者が単立寺院であることや、従来寺宝公開に消極的であったことが影響し、これまで数度自治体や研究機関による単発的な史料調査は行われたものの、同寺史料の全容は明らかにされていない。唯一、『静岡県史』編纂の際に1705枚にのぼる写真撮影(写真は静岡県立中央図書館歴史文化情報センター所蔵、未公開)が行われるなど、大規模な調査が実施されたが、本調査はあくまで文書・記録類を中心に行われたため、現状では未調査・未公開の史料が数多く残存する状況にあった。

一方で、上述の調査による成果が日蓮宗宗学全書刊行会編『日蓮宗宗学全書』第2巻(同会、1921年)・堀日亨編『富士宗学要集』(雪山書房、1935年)・立正大学日蓮教学研究所編『昭和定本日蓮聖人遺文』(身延山久遠寺、1952年)・静岡県編『静岡県史』資料編6中世二(同、1992年)等の既刊書で公表されている。しかし、掲載された史料は日蓮遺文をはじめとした重宝物が中心で、それは所蔵量のごく一部にすぎない。西山本門寺史料を最も多く収録する先行研究として、近世文書を中心に翻刻を掲載した高橋肅道編『西山本門寺文書』(浄願寺、1989年)があるが、本書は昭和年間後期に西山本門寺後継を巡って同寺と日蓮正宗との間で裁判が勃発し、その混乱の最中に日蓮正宗側の僧侶によって刊行された私家版であるため、その内容と史料の所在等については改めて精査する必要があった。

このように、西山本門寺には大量の寺院史料が所蔵されているものの、その大半は現状未公開か未調査、あるいは再調査を要するものであった。そのため、教団を代表する門流の主要寺院にも関わらず、歴代住持の事蹟や上述した寺伝ですら不明瞭な点が多く、同地域の日蓮教団史を緬く上で未だ多くの課題を有している現状にあると言えよう。そのため、所蔵史料の調査による一層の研究進展が待たれるのである。

2. 研究の目的

上述の研究課題を踏まえ、本研究では駿河における日蓮教団の展開を解明する一手段として、日興門流を形成する主要寺院の一つである西山本門寺所蔵の大量な寺院史料に対する悉皆調査を実施し、その全容を明らかにすることを第一の目的とする。そして、調査による研究成果をもとに、特に中・近世成立の史料を手掛かりに多くの課題を残す西山本門寺史について考察し、歴代住持の事蹟・伽藍の変遷・公家や武家等の社会との交流・仏教儀礼等、駿河における日本仏教史の一端を解明することを第二の目的とする。

西山本門寺史料の網羅的な調査はこれまで実施されたとは言い難く、本格的な悉皆調査を実施する点が本研究の学術的独自性と言えるだろう。寺院史料の全容を把握した調査結果に基づいて考察を進めることで、西山本門寺に関わる事蹟をより正確に捉えることができると考える。またその成果によって、これまで研究代表者が主たる研究課題として取り組んできた日興門流研究における通説の妥当性について再検討が可能になると共に、新たな課題の発見にもつながるだろう。さらには調査によって集積した史料データは、大寺院における僧院活動の実態を伝えるモデルケースとして、今後周辺分野の研究への波及効果が期待される。また悉皆調査の成果は、史料保存の観点から所蔵者にとっても大きな利益となるものである。

本研究により、これまで多くの課題を残していた西山本門寺研究が着実に進展し、中近世の駿河における日蓮教団の展開、とりわけ日興門流研究における空白を埋めることができると考える。また、その成果は日蓮教団史研究だけに留まらず、日本仏教史研究・日本史研究の分野に大いに裨益することは確実である。その研究成果の公表を通じて、日蓮研究者およびその周辺分野

の研究者との情報共有が可能となり、情報の提供を受けることも期待でき、ひいては研究の発展を期するものとする。

また、永村眞『中世寺院史料論』(吉川弘文館、2000年)が述べるように、寺院社会に生まれ伝存した膨大な寺院史料は聖俗両界にわたる歴史研究の素材として活用され、近年悉皆調査による成果として大寺院所蔵の史料目録や史料集の公刊が相次いで行われている。その一例を挙げれば、高山寺典籍文書総合調査団編『高山寺経蔵典籍文書目録』(汲古書院、2007年)、宇高良哲他編『南光坊天海発給文書集』(吉川弘文館、2014年)等、また日蓮系寺院では中尾堯編『中山法華経寺史料』(吉川弘文館、1968年)、身延文庫典籍調査会編『身延文庫典籍目録』(身延山久遠寺、2003-2005年)、立正大学日蓮教学研究所編『本満寺宝物目録』(本満寺、2010年)等がある。特に中尾堯氏は上記史料集をもとに、中山門流の展開について研究し、その成果を『日蓮宗の成立と展開』(吉川弘文館、1973年)として公刊して、中山門流史研究を大きく進展させている。

本研究で研究対象とする西山本門寺の史料調査を実施することで、上述のような研究成果へと結びつく研究の土台構築が実現できると考えた。

3. 研究の方法

本研究は、西山本門寺史料に対する悉皆調査を実施して同寺史料の全体像を捉え、その成果を踏まえて中世・近世成立の史料を中心に検討し、中近世駿河における日蓮教団史の実態解明を試みるものである。本研究の具体的作業は以下の(1)～(4)で、平成30～令和2年度の3年計画で行った。

- (1) 史料調査(史料の調書作成、寸法測定、写真撮影、ナンバリングによる整理等)
- (2) 史料目録作成(調書入力、写真データ整理) 「西山本門寺史料目録(仮)」の編纂
- (3) 史料翻刻 「西山本門寺史料集(仮)」の編纂
- (4) 国内学会、研究論文等で研究成果の公表

まず、本研究の基幹作業にあたる(1)「史料調査」については、現状未整理の状態にある史料に個別のナンバリングを付した上で各々の調書を作成し、寸法測定・写真撮影を実施する方法で行った。西山本門寺史料の所在場所は主にA宝蔵、B本堂、C庫裡、D境内・墓地の4箇所で大別される。この内、書跡史料が多く保管されるのはAとCだが、Aには日蓮遺文等の重宝物が安置され、先行研究で既に取り上げられる史料はほぼAに保管されているので、現状調査の進捗の遅いC B D Aの順で調査を進めるのが最も効率的と考えた。また、調査期間については所蔵量から推測して、相当数の調査回数が必要であったため、当初平成30～令和2年度中旬までの約2年半を主たる調査期間として想定したが、史料調査の進捗が当初の想定より遅れたため、令和2年度末まで継続した。

次に(2)「史料目録作成」は、史料調査によって蒐集した史料の記録をデータ入力し、西山本門寺史料を視覚的に一望できる目録の作成作業である。寺院史料にはその性質によって様々な種類があるので、本目録では「曼荼羅本尊」「典籍」「文書・記録」「仏像・仏具」「書画」「金石文」等に分類して作成し、その成果を「西山本門寺史料目録(仮)」としてまとめた。なお、本作業は(1)で作成した調書を元とするので、調書がある程度累積した段階から史料調査と並行して行った。

続いて(3)「史料翻刻」は、(4)を実行することを見据えて行う西山本門寺史料の翻刻作業である。(2)で作成した史料目録を元に、同寺所蔵の重要史料あるいは今後の研究に裨益すると思われる史料から優先的に翻刻し、その成果を「西山本門寺史料集(仮)」としてまとめる計画を立てた。本作業は(2)の作業がまとめの段階に入った頃より順次行う予定であったが、史料調査の進捗が遅れたことにより、本作業に着手することはできなかった。

そして(1)～(3)の研究成果をもとに、(4)「国内学会、研究論文等で研究成果の公表」を行った。以上の方法・計画で、中近世駿河における日蓮教団の実態解明を試みた。

なお、本研究は基本的に西山本門寺所蔵史料を中心に史料調査を行ったが、関係寺院(末寺)である静岡県内の他寺院も対象に調査を実施し、史料の記録採取と写真撮影を行った。

4. 研究成果

本研究における第一の成果は、本研究で実施した西山本門寺の史料調査により、計1830点の史料の写真データと、詳細な記録を採取できたことである。これは、これまでに実施された西山本門寺史料調査の中で量的に最も多いものである。研究期間に悉皆調査が完了しなかった点は今後の課題であるが、調査済の1830点に関しては史料目録を作成し、史料の把握と整理ができたことは、同寺内外の動向を明らかにするための直接的な手掛かりとして、今後の西山本門寺史研究の進展が期待される。

また、第二の成果は、国内学会での口頭発表および論文の発表である。特に、西山本門寺の重宝の一つである18世日順『内過去帳』を取り上げ、令和元年9月8日に日本印度学仏教学会第70回学術大会において「西山本門寺所蔵の日順『内過去帳』について」という学会発表を行った。さらに、その成果を論文にまとめ、『印度学仏教学研究』第68巻1号に「西山本門寺所蔵の日順『内過去帳』について」との論文を発表した。これらの研究成果では、従来その存在は周知されていたものの、内容は明らかにされてこなかった日順『内過去帳』について、その内容の分析と、日本仏教史における『内過去帳』の史料的意義について明らかにしたものである。『内過

去帳』は、近世初期に成立した日蓮教団の中でも数少ない過去帳の一例であり、その内容の分析を通じて史料的意義を明らかにできたことは、日本仏教における過去帳研究の進展につながるものと思われる。

これらの研究成果は、西山本門寺史の解明に留まらず、駿河における日本仏教史の展開および周辺領域の研究にも大いに裨益するだろう。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計1件（うち査読付論文 1件 / うち国際共著 0件 / うちオープンアクセス 0件）

1. 著者名 本間俊文	4. 巻 68
2. 論文標題 西山本門寺所蔵の日順『内過去帳』について	5. 発行年 2019年
3. 雑誌名 印度学仏教学研究	6. 最初と最後の頁 142-147
掲載論文のDOI（デジタルオブジェクト識別子） なし	査読の有無 有
オープンアクセス オープンアクセスではない、又はオープンアクセスが困難	国際共著 -

〔学会発表〕 計1件（うち招待講演 0件 / うち国際学会 0件）

1. 発表者名 本間俊文
2. 発表標題 西山本門寺所蔵の日順『内過去帳』について
3. 学会等名 日本印度学仏教学会第70回学術大会
4. 発表年 2019年

〔図書〕 計2件

1. 著者名 西山本門寺寺宝類聚刊行会（本巻編集担当本間俊文）	4. 発行年 2018年
2. 出版社 富士山西山本門寺	5. 総ページ数 94
3. 書名 西山本門寺寺宝類聚 一	

1. 著者名 西山本門寺寺宝類聚刊行会（本巻編集担当本間俊文）	4. 発行年 2019年
2. 出版社 富士山西山本門寺	5. 総ページ数 145
3. 書名 西山本門寺寺宝類聚 二	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

	氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
--	---------------------------	-----------------------	----

7. 科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕 計0件

8. 本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関
---------	---------